

混合ガス発生装置

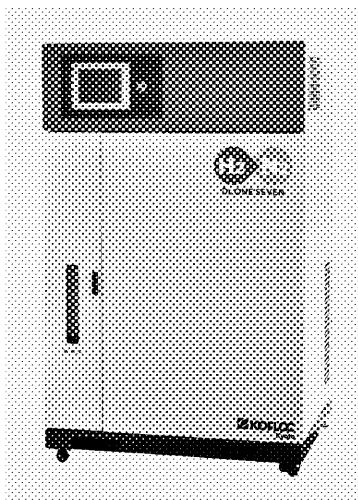
コフロックがヘリウム代替

【京都】コフロック（京都府京田辺市、小島望社長）は、供給不足が続くヘリウムガスの代替として、多様な製造ラインの気密検査などで利用が広がる混合ガスの内製化とコスト低減ができる新ガス発生装置を発売した。同社の窒素発生装置、水素発生装置、混合装置を応用して組み合わせ、空気と水で混合ガス（水素と窒素で構成）を生成。ガスボンベでの同ガス購入と比べた運用コストの大幅低減と、ボンベの手配不要などの利点を訴求し市場を開拓する。

新製品「Dr. ON 毎分2・6〜50リットル。水と小型で、消費税抜き価格は1500万円から。年間10台の販売を目標す。

設置面積が1平方メートル

と小型で、消費税抜き価格は1500万円から。年間10台の販売を目標す。



H₂+N₂ガス発生装置「Dr. ONE SEVEN」

運用コストを混合ガスのボンベ購入の場合

内製化でボンベ手配不要

と比べて約10分の1、ヘリウムガスのボンベ購入の場合と比べて50分の1程度にそれぞれ低減できる。

車部品や電子部品、食品、水道・ガス機器などの製造ラインの気密検査向けリーク検出器のメーカーでは、すでに混合ガス対応品を展開する企業がある。コフロックはドクターワンセブンをこれらの企業に提案する。またボンベ輸送が不要で二酸化炭素（CO₂）排出削減が見込めるため、遠隔地への配送で苦労

気密検査向けコスト削減

するガス販売会社などを通じた市場展開も視野に入れる。

生成した混合ガスはボンディングやハンダの酸化防止、酸化還元向けフォーミングガスなどにも使えるため、それらの用途にも訴求する。

ヘリウムガスは天然ガス産出時に副産物として得られる。ただ、生産地は北米や中東などに限定され、設備トラブルや情勢不安、世界的な需要増加を背景に供給不足が長期化している。